

環境学習・教育検討小委員会（第1回）でいただいた主なご意見と対応案

1. 基本方針全般

	主なご意見	対応案
1	環境学習・環境教育の目的を鮮明に理解し共有する。それを共有するための何か手立てを講じる必要がある。	方針の基本的事項に目的を記載する。
2	環境という領域において、一番大事にしないといけない「循環」という仕組みがあって、それを壊している人間活動があって、この関わりをどうするのかという問題意識を背骨として通しておかないといけない。	同上。
3	環境教育を通して、環境に携わる人を育てるのか、持続可能な社会への参画を促すのか、という大きな方向性を整理しておく必要がある。	持続可能な社会づくりにつながる方向で基本方針を改定する。
4	「環境」というよりはむしろ「自然」と言った方が、総合的なとらえ方に近くなるのではないか。	方針の基本的事項に「人と自然が共生～」と記載する。
5	推進にあたっての基本的な考え方で、「本県の特性を踏まえた」というところが曖昧になってしまっている。	本県の特性である「地域の多様な自然・風土」等を記載する。
6	現方針の「五感で学ぶ」「体験する」というところは非常によく出来ている。	次期方針においても維持する。
7	現方針を生かすにしても、次の10年は力点をどこにするか議論するといいいのではないか。	方針全体を通して記載する。

2. 推進方策

	主なご意見	対応案
<成人期>		
1	総合的、体系的に見るということは30代になって気づくところがあるので、大学、働き出してからもう一度学び直しができるかよいのではないか。	大学生・社会人向け施策の拡充を検討する。
2	学ぶ側と学びを支援する側。その二つを常に生涯やっていくという視点でお願いしたい。	ライフステージに応じた環境学習・教育に反映する。
3	環境学習は幼い時から、高校、大学、若い人ぐらいが対象ではないか。	施策の実施に当たり考慮する。
4	現場サポートできるような人材をこれからもっと発掘していき、学んでいくことが必要である。	推進方策で人材育成に関する事項を記載する。
5	大学生の環境学習教育インターンシップの制度とか、兵庫県に在籍する大学生が環境保全等に配慮する制度（エコ割）を始めたかどうか。	施策実施を検討する。
6	若い世代とシニア世代が共に学ぶというのはその通りだと思い、多世代交流という言葉を使ったらいいのではないか。	ライフステージに応じた環境学習・教育で記載する。

7	知識や経験豊富なシニア世代が教えすぎるのではないか。	施策の実施に当たり考慮する。
8	成人期に向けて学びの場を提供していくことを盛り込まないといけない。	ライフステージに応じた環境学習・教育に反映するとともに推進方策にも記載する。
<学齢期>		
9	環境学習を推進する先生を、ALTのように各学校に必ず配置し、それを義務付けると各学校の環境学習が徹底できるのではないか。	推進方策に学校等における環境学習・教育の支援について記載する。
10	学校現場は多忙であり、教員に対していろんな領域の知識を深めることを要求するよりは、どんな領域でも対応できるというプロセスを見る力を身につけることをサポートする方が重要ではないか。	推進方策に教員の研修について記載する。
11	幼稚園・小学校から中学校や高校の段階で途切れてしまうことが大きな課題。中・高の段階での環境学習をどのように取り組むかは非常に重要である。	ライフステージに応じた環境学習・教育で中学生、高校生への環境学習・教育を記載する。
12	学校の取組に手を加えるなど学校現場をサポートするという形で、人が入っていくことは非常に効果がある。	推進方策で支援に関する事項を記載する。
13	学校やその周辺の環境をよく把握し、自校の環境学習・環境教育のプログラムを作ることが必要になってくる。	推進方策に地域の実情に応じた環境学習・教育の実施について記載する。
14	教員の研修とともに、自然環境教育をやるリーダーを登録したりして、学校それぞれに置いていただきたい。	推進方策に学校等における環境学習・教育の支援について記載する。
15	教え込むのではなくファシリテーションが出来る人を配置することが今後必要ではないか。	推進方策にファシリテーター等の育成について記載する。
<幼児期>		
16	都市公園という場所を（環境学習の資源に）位置づけてほしい。	推進方策に記載する。
17	「幼児期」というのを「乳幼児期」にしたらいいのではないか。	「乳幼児期」と記載する。
18	親子、祖父母と孫と一緒に学ぶという目線や仕掛け作りが必要ではないか。	施策実施を検討する。
19	幼稚園等の事例発表会はいい研修の機会である。	推進方策に記載する。
20	取組の視点を変えるだけで畑仕事は環境学習になる。	研修の実施に当たり留意する。
21	キーパーソンを置くのではなく、キーパーソンを育てる研修が必要である。	推進方策で人材育成に関する事項を記載する。
22	教員養成の学生に何が最も大事かという「関心を持つ」ということである。	研修の実施に当たり留意する。

3. その他

主なご意見		対応案
1	ふるさとに帰りたいと思えるような心を育てる環境学習を進めてほしい。	基本的考え方や推進方策において記載する。
2	環境に関わる様々な機関がネットワークを組み、きめ細かいサポートができるような体制を作っていく必要がある。	推進方策に記載する。
3	明るく楽しく世界中で環境に対してこんなことをしている、という囲み記事を参考事例としてまとめてほしい。	参考事例を囲み記事として掲載する。